時空をこえてつながってきた人形劇のまち飯田

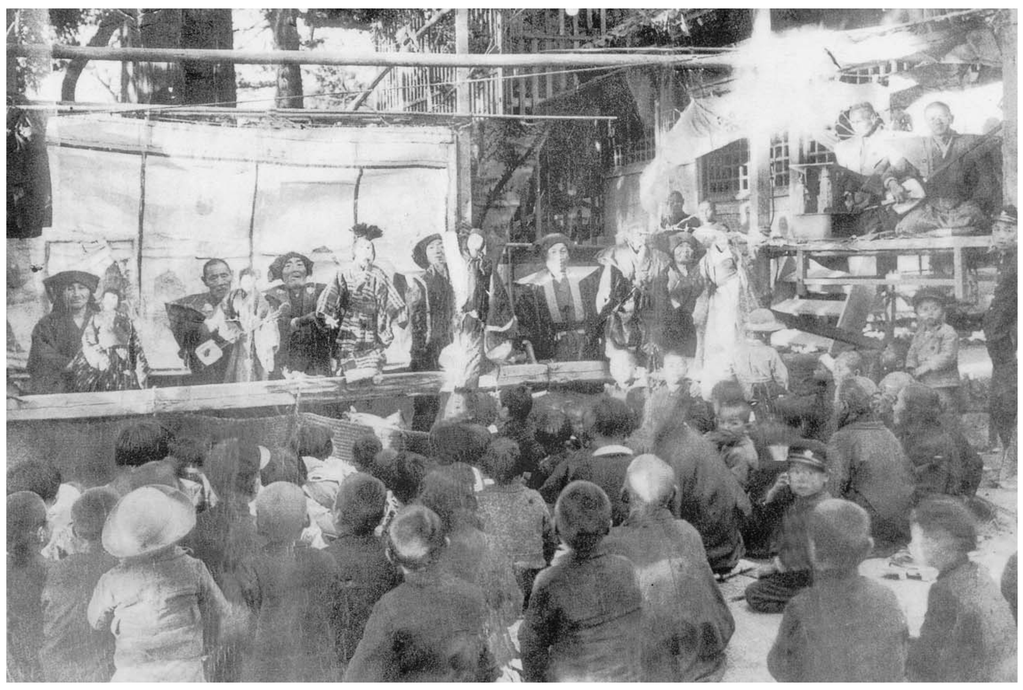
伊那谷の人形芝居

江戸時代に大阪を中心に繁栄した人形浄瑠璃は、街道筋を伝って伊那谷※1に伝えられ、庶民の娯楽として伊那谷の各所に広がり定着しました。これらは、神事芸能としての性格を持って地域の人々の心に深く根を張り、その多くは地域の青年たちの手で支えられました。伊那谷にはかつて20以上の人形座があり、専用の人形舞台が建てられる程の隆盛をみます。しかし、江戸時代末期以降、幕府の倹約令や明治政府の鑑札制度、新たに人気を呼んだ地芝居の影響などによりその多くが衰退し、昭和の初めには黒田、今田、早稲田、古田の四座が現存するのみとなりました。それらも、昭和10年代には若者不在から大部分が廃滅寸前まで衰微してしまいます。

戦後、日本経済が発展に向かった昭和30年代、黒田・今田・早稲田の三座が「伊那人形保存協議会」を結成し伊那谷の人形芝居の復興の礎が築かれました（昭和59年には古田を加えた四座で「伊那人形芝居保存協議会」を結成）。昭和50年には黒田・今田ともに国選択無形民俗文化財となっています。これに前後して、各座で保存会や中学校人形クラブなどを設立し、保存継承に向けて後継者育成などの取り組みが活発になります。

各人形座では、演じたことのなかった演目を習得したり、上演が途絶えていた演目を復活させるなど、地域の伝統的な人形芝居の伝承に力を入れています。また、昭和58年には今田人形座による新作「小太郎物語」が創られるなど、新たな魅力を生み出しています。

※1 南アルプス、中央アルプスにはさまれた天竜川沿いの地域。上伊那郡と下伊那郡の総称。



今田人形　昭和天皇即位 御大典記念掛け舞台（昭和4年）

黒田人形　下黒田諏訪神社 春季祭禮奉納公演（平成15年）